

## ◆ 今週のコメント

- ・ 第32週は、お盆の期間で休院している医療機関もあり、例年、この時期は全般的に報告数の減少する傾向がみられます。
- ・ 水痘の定点当たり報告数は、0.63(25例)で、前週に比べ増加しています。年齢階級別では、1歳及び3歳が8例(32.0%)で最も多く、次いで、2歳及び4歳が3例(12.0%)となっており、1歳～4歳で88.0%を占めています。
- ・ RSウイルス感染症の報告が、3例あります。例年夏季には、ほとんど報告がありませんが、本年は、第27週(7月4日～10日)より連続して報告があります。全国でも7月以降、報告数が増加していますので、今後の動向にご注意ください。

## ◆ 今週のトピックス: <腸管出血性大腸菌感染症>

腸管出血性大腸菌感染症の報告が、第31週の10例に引き続き、6例あります。詳細をトピックスに掲載しています。

## ◆ 特集: 手足口病(第32週までのまとめ)

手足口病の定点当たり報告数は、2.35(94例)で、第28週(12.68)をピークに減少を続けていますが、本年のピークは、昭和57年に感染症発生動向調査が開始されて以降、最も高くなりました。

## ◆ 発生状況

### 全数把握の感染症

- ・ 三類: 腸管出血性大腸菌感染症 6例【1月以降の累積報告数 26例】

### 定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点67, 小児科定点40, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.00	0
小児科 (降順5位まで)	① 手足口病	2.35	94
	② 感染性胃腸炎	1.53	61
	③ ヘルパンギーナ	1.05	42
	④ 水痘	0.63	25
	⑤ 突発性発しん	0.48	19
眼科	流行性角結膜炎	0.40	4

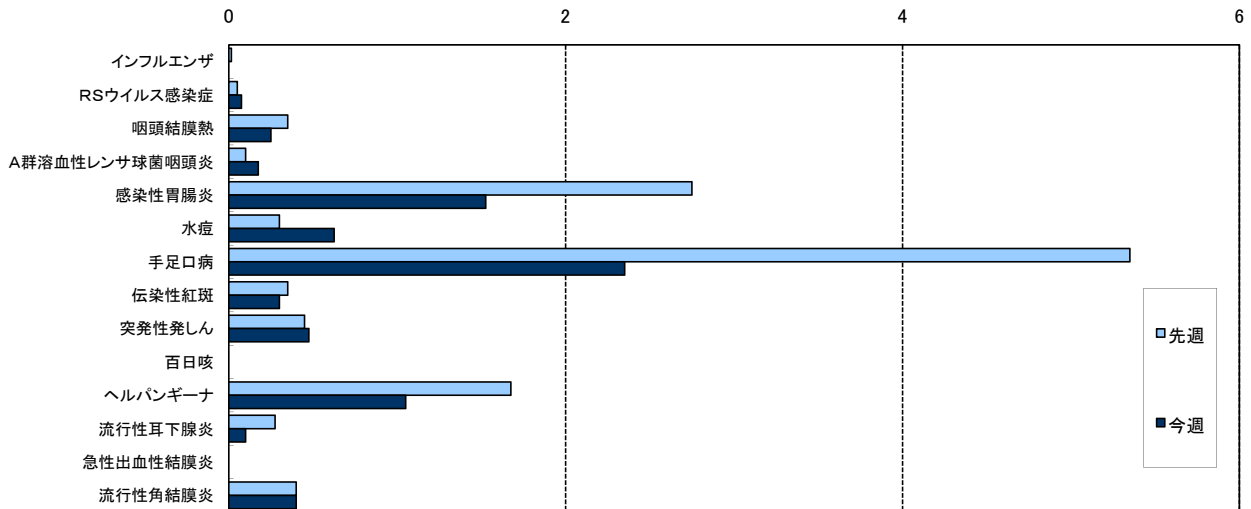
## 【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <腸管出血性大腸菌感染症> / 特集: 手足口病

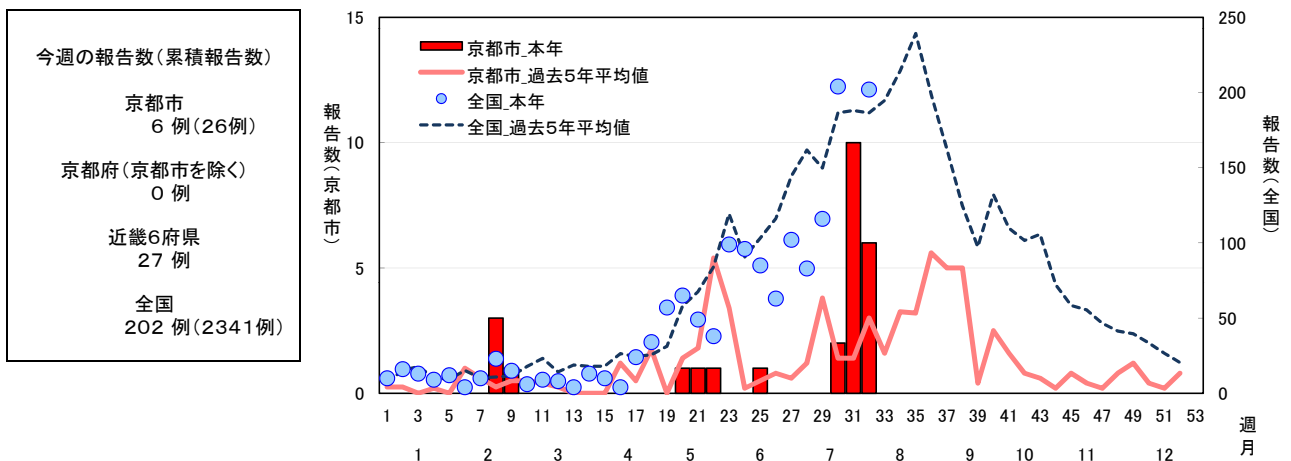
(注) 京都市のデータは、平成23年8月18日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。  
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

# ◆ 発生状況の概況グラフ

## 1 今週(第32週)と先週(第31週)の定点当たり報告数の比較

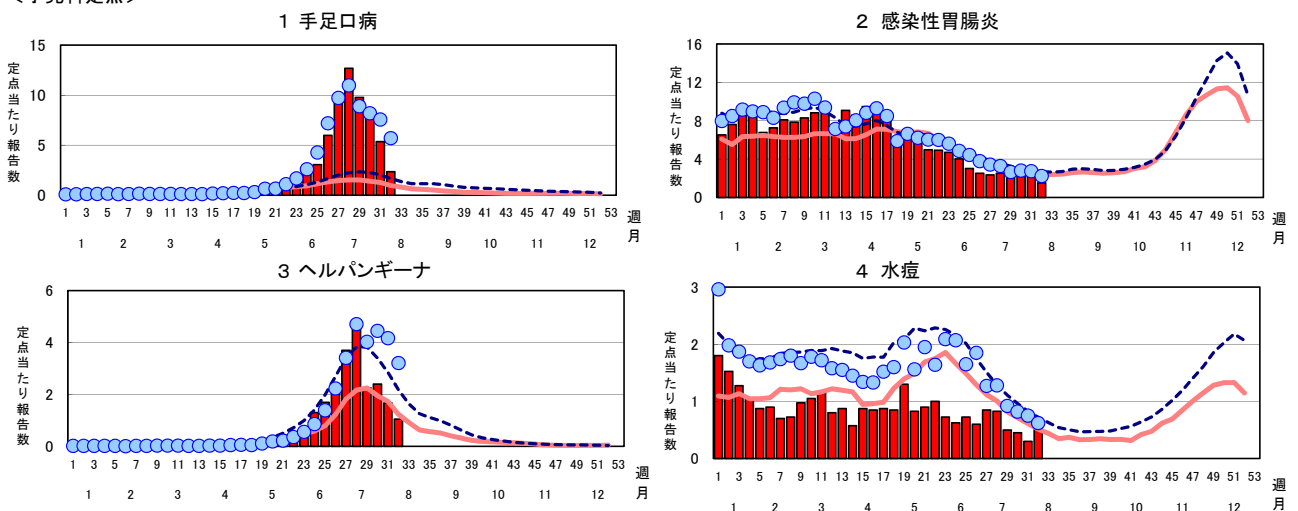


## 2 腸管出血性大腸菌感染症(三類感染症)の推移

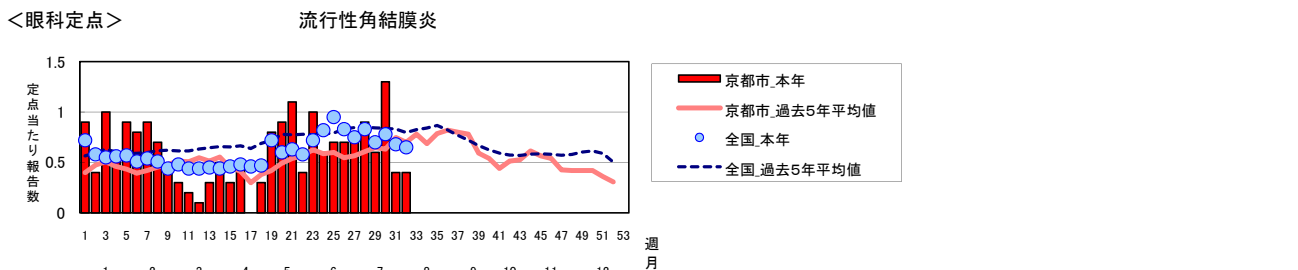


## 3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



## 今週のトピックス：＜腸管出血性大腸菌感染症＞

腸管出血性大腸菌感染症の報告が、先週の10例に引き続き、32週に6例あります。年齢は、10歳代～80歳代で、男性4例、女性2例です。血清型別、毒素型は、O157・VT1VT2(4例)、O157・VT2(1例)、O145・VT2(1例)で、推定感染経路は、経口感染が3例で、家族との接触感染が2例、不明が1例です。

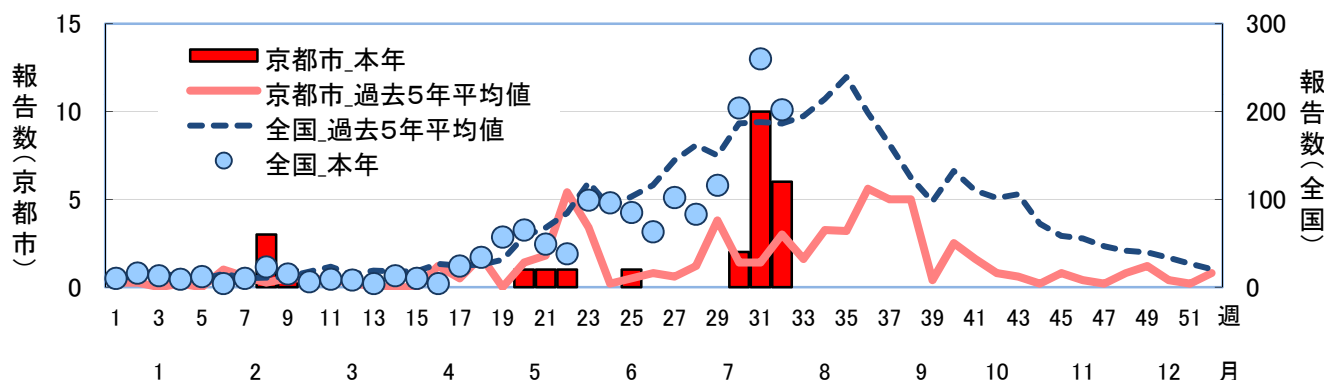
本年の累積報告数は26例で、年齢階級別では、10歳未満が1例、10歳代が5例、20歳代が2例、30歳代が4例、40歳代が2例、50歳代が2例、60歳代が3例、70歳代が3例、80歳代が4例で、高齢者の割合が高くなっています。

血清型別ではO157(23例)、O86(1例)、O145(1例)、HUS(溶血性尿毒症症候群)の届出がされましたが、菌株はとれず型別不明(1例)となっています。例年、本市、全国共にO157の報告が最も多く、次いでO26の順となっていますが、本年は、全国でO145の割合が増えています。

医療機関におかれましては、腸管出血性大腸菌感染症を診断された場合は、速やかに所轄の保健センターに届出いただようお願い致します。また、腸管出血性大腸菌感染症報告後にHUSの発症が認められた場合は、追加報告をお願い致します。

[医師の届出基準、届出の様式](京都市保健衛生推進室保健医療課のホームページ)

<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000043726.html>



本市における診断年別 型別報告数

診断年	合計	O26	O86	O91	O103	O111	O121	O145	O157	その他
平成11年4月以降	26								25	O1が1例
平成12年	33	8							25	
平成13年	52	8				1			43	
平成14年	35				1				32	O165、O型別不明が各1例
平成15年	101	5							96	
平成16年	48	2					4		42	
平成17年	36	5		1					30	
平成18年	57	2					1		54	
平成19年	54	2				3			49	
平成20年	86	34			5	2		3	41	HUS患者で型別不明が1例
平成21年	93	8		1		3	1	1	79	
平成22年	34	1			1	2			30	
平成23年第32週まで	26		1					1	23	HUS患者で型別不明が1例

全国の血清型別推移 (平成23年8月18日現在)

